

第60回記念九州地区高等学校PTA連合会大会 『おんせん県おおいた大会』

第2分科会

進路指導とPTA活動での発表報告

熊本県立熊本西高校育西会
会長 坂口 頼康

平成28年6月16日(木)、数年ぶりに訪れた別府の街は、以前と変わらぬ活気に満ちているように思えた。

しかし、タクシーの運転手さんによると、4月の地震以降、別府一湯布院一阿蘇一熊本という観光ルートが断たれ、また風評被害もあり、観光客は激減しているとのことだった。熊本地震による被害は決して熊本だけにはとどまらないことを実感した。

今回の九州大会は、発表校としての参加なのでいつもと様相が違う。16日の事前打合せ、リハーサルからの参加となり、スタッフの方々の御苦勞を改めて目のあたりにしながらも否が応にも緊張感が高まる。夜の懇談会にも参加させて頂き、大分のお酒を堪能しながら本番に備える。

17日(金)大会当日。発表校4校の中で一番目の発表ということで緊張感は最高潮。固まりそうになりながら会場に到着すると、スタッフの方々の対応がとても温かい。首から発表者用のカードを掛けているだけで、向こうから声

をかけてもらえるし、誰に尋ねても対応が丁寧である。おかげで、発表の方も、少々カミながらも無事に終えることが出来た。西高が地域に密着した活動を通して地域の皆さんに親しまれ、私達育西会が子ども達の夢実現のためにどのような応援をしているのかを分かって頂けたと思う。他校の発表も興味深いものばかりだった。高校OBの先輩数名に講演を依頼し、子ども達に自分の聞きたい職業の話を選んで受講させるキャリアプランニングセミナー、保護者で作る受験のための合格勝(カツ)カレー、センター試験や就職の激励会など、今後のPTA活動に参考にしたいものが数多くあった。

記念講演での柳本昌一氏の話にも感銘を受ける言葉が沢山あったが、大会2日間を通して、感謝・復興という言葉に感動を覚えた大会であった。このすべての人々の想いが来年の熊本大会に繋がることを願う。



高校生の交通事故防止対策研修会のまとめ

健全育成委員会委員長 村上幸一郎

平成28年度の『高校生の交通事故防止対策研修会』は、保険の立場から見た自転車事故のあり方や事故への備えについて、『知っていますか？自転車事故 ～安全な乗り方と事故への備え～』をテーマに社団法人 日本損害保険 九州支部副長 田邊 陽一氏、東京海上日動火災保険株式会社 熊本損害サービス第二課長 岐部 幹夫氏のお二方を講師にお招きし講話をしていただきました。

ここ数年の交通事故件数に占める自転車事故件数の割合は2割程度と高い水準で推移しています。年間に約10万件ほど発生していますが、事故にはパターンがあり、安全不確認や一時不停止など、いかに普段からの注意が必要かがうかがえます。

また自転車は軽車両となり被害者だけでなく加害者にもなります。以前は交通弱者とも言われていましたが、現在では交通強者と言っても過言ではありません。



状況や場合によっては多額の保険金を支払わなければなりません。その為の保険加入も不可欠です。

今回お招きした講師の方々は普段から高校生を対象に講話をしているとのこと、いまいちど事故や保険について認識していく上でも各単Pでの研修会をしていただくようお願いしたいと思います。

進路対策講演会 報告

進路対策委員会委員長 中尾 友二

8月6日に県高P連研修会があり、進路対策講演会で「チャンスをつかめ」と題し、講師に日通NECロジスティクス株式会社・第一グローバルソリューション事業部・熊本営業所長の徳田輝久氏を招いて行われた。

企業としては、「心身ともに健康を続ける人」を採用したいと考えておられ、健康が一番大事ということである。また、企業に就職してからの即戦力はいないが、自分が戦力になる為には「考える・決める・行動する段取り」が必要であるとも言われた。チャンスをつかむためには、若い時の感性がとても大事で色々なことを経験してほしい。またこれからは、女性の感性(能力)が必要であるとも申された。人とのコミュニケーションについては日頃の挨拶が大事であり、話し方・聴き方についても述べられた。最後に、人を認め伸ばしてあげることが企業経営の伸びに繋がると話され、まさしく家庭においても学校においても同様と思う。



確かな**技術**と**資格**で求められる人になる！



西日本教育医療専門学校

こども未来学科[夜間](3年)

視能訓練士学科(3年)

医療事務管理士学科(1年)

熊本市東区健軍3丁目50番21号 TEL(096)331-3301

西日本教育医療専門学校

検索